

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京科学大学拠点連携校共通						
教育プログラム・コース名	連携7校共通:個別化医療人養成コース (インテンシブコース)						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、保健師、助産師、遺伝カウンセラー、診療情報管理士、生殖補助医療胚培養士、臨床心理士、社会福祉士、その他医療職						
修業年限 (期間)	1年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん個別化医療の現状の問題点を理解し、創薬等を通して対応を行うことができる医療者の養成を目指す。 ・多職種からなるチームを構成し、それぞれの専門性を活かし、個別化医療に貢献できる医療者の養成を目指す。 						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本コースで定める科目について、オンライン授業、シンポジウム、セミナー、オンライン症例検討会 (エキスパートパネル)、ハンズオン実習等を履修し、試験やレポート、指導教官との討論等を通して評価を行う。 						
履修科目等	<p><座学 (選択科目)>がんゲノム医療イントロダクション、ゲノム・遺伝子・DNAの基礎、ゲノム解析の方法、シークエンスデータの解析方法、がん遺伝子パネル検査、がんゲノム医療の臨床的有用性講義、シグナル経路総論講義、シグナル経路①RTK (EGFR, HER2, HER3, HER4)、シグナル経路②RTK (ALK, ROS1, RET)、シグナル経路③RTK (FGFR, KIT/PDGFR, MET/VEGFR)、シグナル経路④PI3K経路、シグナル経路⑤MAPK経路、シグナル経路⑥WNT, NOTCH, HEDGEHOG経路、シグナル経路⑦Cell cycle, TP53、シグナル経路⑧DNA修復、MSI、LOH、シグナル経路⑩Epigenomics、シグナル経路⑪Metabolic pathway講義、二次的所見と遺伝性疾患、C-CATへのデータ共有と利活用、検体の品質管理講義、Pharmacogenimics</p> <p><演習 (選択科目)>エキスパートパネル、次世代シーケンサー、看護師ケース・メソッド</p> <p><セミナー/シンポジウム>一線級の専門家による創薬や全ゲノム解析等に関するセミナー/シンポジウム</p>						
がんに関する専門資格との連携	腫瘍内科専門医 (日本臨床腫瘍学会学会)、分子病理専門医 (日本病理学会)、遺伝性腫瘍専門医 (日本遺伝性腫瘍学会) の研修施設として認定。						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	本コースは、がん個別化医療の初学者が、基礎から最先端の応用まで一気通貫で学ぶ事ができ、また多職種との連携も学ぶ事ができるのが特色である。また、座学のみならず、実習・演習を通し高い応用力の養成を目指す。						
指導体制	連携校の各領域 (臨床腫瘍学、がんゲノム、病理学、臨床遺伝学、看護学、薬学など) のエキスパートが合同でコースの座学、実習、演習を担当する。						
修了者の進路・キャリアパス	<p>【がん個別化医療に携わる医療人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設にて、がん個別化医療に精通した医療者として活躍 <p>【想定される専門職】</p> <p>がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医/遺伝性腫瘍専門医、遺伝専門看護師、遺伝性腫瘍コーディネーターまたは家族性腫瘍カウンセラー、がんゲノム医療コーディネーター、創薬の専門家 (製薬メーカー等)、バイオインフォマティクス専門家等</p>						
受入開始時期	令和5年9月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	15	30	30	30	30	30	165
受入目標人数設定の考え方・根拠	がんゲノム医療中核拠点病院慶應義塾大学と拠点病院東京科学大学の連携病院が計19ある。本事業の連携校7校に6病院あり、計25施設となる。これらの病院へのスタッフ6名ずつの配置を目標とし、165名養成する必要がある。過去のインテンシブコース志願者数および事前の希望調査も考慮し、目標人数を165人と設定。						
履修者数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	0	51					51